

事業群評価調書(令和4年度実施)

基本戦略名	2-3 環境変化に対応し、一次産業を活性化する	事業群主管所属・課(室)長名	農林部 林政課	永田 明広
施策名	1 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	事業群関係課(室)		
事業群名	① 生産性の高い農林業産地の育成-3	令和3年度事業費(千円)	※下記「2. 令和3年度取組実績」の事業費(R3実績)の合計額	175,564

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)										(取組項目)	
米、園芸、畜産、木材など地域・品目ごとに所得向上を図る「産地計画」を基軸とし、スマート農林業の展開などにより、経営規模の拡大、単収・単価の向上、コスト低減などに取り組み、生産性の高い農林業産地の育成を図ります。										i) 県産木材・特用林産物の生産拡大 ii) 産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発	
事業群	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 本県の素材生産量は、森林整備事業の実施や高性能林業機械の導入等により、搬出間伐を中心に基準年(H30)の144,086㎡から、R3年度には170,023㎡へと着実に増加し、目標を達成した。しかしながら、更なる生産拡大を目指し、令和7年度生産目標数量である200,000㎡の達成に向けて高性能林業機械の導入による生産性の向上や新規林業担手の確保・育成、主伐・再造林対策などに引き続き取り組む。	
	産地計画策定産地の販売額(米・園芸・肉用牛・養豚)		目標値①	1,075億円	1,085億円	1,093億円	1,103億円	1,114億円	1,114億円(R7)		
			実績値②	1,021億円(H29)	算定中				進捗状況		
		達成率②/①		—					やや遅れ		
その他関連指標	指標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)		
	素材生産量		目標値①	168,000㎡	176,000㎡	184,000㎡	192,000㎡	200,000㎡	200,000㎡(R7)		
			実績値②	144,086㎡(H30)	170,023㎡				進捗状況		
		達成率②/①		101%					順調		

2. 令和3年度取組実績(令和4年度新規・補正事業は参考記載)

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費(単位:千円)			事業概要 令和3年度事業の実施状況 (令和4年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			令和3年度事業の成果等	
				R2実績	うち一般財源	人件費(参考)		R2目標	R2実績	達成率		
				R3実績								R3目標
				R4計画	事業実施の根拠法令等			R4目標	R4実績	達成率		
事業期間	法令による事業実施の義務付け	県の裁量の余地がない事業	他の評価対象事業(公共、研究等)	事業対象								
所管課(室)名												
取組項目 i	○	1	合板・製材生産性強化対策事業費	545,487	0	26,665	地元説明会等を通じて事業者や森林所有者に事業内容の周知と事業実施の合意形成を図り、間伐材の生産及び路網整備等を一体的に実施した。また、林業事業者の生産性の向上を図るため、高性能林業機械の導入を支援した。	【活動指標】	6	6	100%	●事業の成果 ・各地方機関ごとに事業者へ事業内容の説明を行い、普及員が事業者とともに森林所有者に事業実施の同意取得を行ったが、豪雨災害に伴うR4年度への事業の繰越しに伴い搬出間伐実施面積の達成率が低調となった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・林業事業者の生産性向上により単位当たり収量の増大を図り、素材生産量の増加へ寄与した。
				151,733	0	26,549		地元説明会の回数(回)	6	6	100%	
				228,353	0	26,177			4			
				森林法第193条				【成果指標】	642	664	103%	
			H28-					搬出間伐実施面積(ha)	260	204	78%	
林政課				—	—	○						

取組項目 i	2	地域と森林見守り推進事業費(対馬しいたけ活性化対策)	800	800	6,260	原木管理の労務軽減対策としてパワーアシストスーツのリースや体験研修会を実施した。また、商談や催事PR活動等による販売促進の取組を支援した。	【活動指標】	1,300	171	13%	●事業の成果 ・春期の記録的な早期気温上昇と、冬期の雨不足により生産量は27トンと伸びなかった。 ・アシストスーツの体験を生産者が行うことで、しいたけ原木管理の労務軽減対策を検討することができた。また販売促進の取組支援により、品質向上と収益増加につながった。	
			665	665	7,011		原木伐採本数(千本)	1,300	291	22%		
		(R3終了)R元-3	—				【成果指標】	100	29	29%		
		林政課	—	—	—		対馬しいたけ生産量(t(乾換算))	110	27	24%		
	3	地域と森林見守り推進事業費(五島ツバキ活性化対策)	663	663	7,824	五島列島ヤブツバキ振興協議会の協議会運営経費および、種子(油)・葉・幹の供給体制を踏まえたモデル地域の設定費用を支援した。 農林技術開発センターが優良母樹からの採穂及び苗木の育成等を行った。	【活動指標】	20	0	0%	●事業の成果 ・生産量については、R3年度は豊作年であったが、新型コロナの影響でツバキ油の需要が減り、精油所がツバキ実の受入を制限したことから、目標に達しなかった。 ・集落向けのツバキ剪定講習会が新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、断幹や大苗植栽を行いモデル林を設置し、効率的なツバキ実の採取に向けて検討することができた。	
			616	616	6,232		ツバキ取組集落数(集落)	30	0	0%		
		(R3終了)R元-3	—				【成果指標】	50	21.5	43%		
		林政課	—	—	—		五島ツバキ油生産量(kl)	57	27	47%		
	4	森林のめぐみ効果拡大事業費(対馬しいたけ活性化対策)				対馬しいたけ生産者等が組織する団体が実施する、販売流通促進・生産意欲向上に向けた取組を支援する。	【活動指標】				—	
			1,121	1,121	6,913		新規販路の開拓件数(件)	3				
		(R4補正)R4-6	—				【成果指標】					
		林政課	—	—	—		対馬市	1,200				
5	森林のめぐみ効果拡大事業費(五島ツバキ活性化対策)				農林技術開発センターが、効率的なツバキ実の収穫に向けた高木化しないための剪定・適正配置技術の研究・確立を行う。	【活動指標】				—		
		965	965	6,913		剪定講習会の実施件数(件)	4					
	(R4補正)R4-6	—				【成果指標】						
	林政課	—	—	—		農林技術開発センター	2					
取組項目 ii	○	6	森林環境譲与税事業費(森林情報整備)	22,550	0	7,011	県、市町、森林組合、林業事業者が森林情報をリアルタイムに共有、活用できる長崎県森林クラウドシステムを構築した。	【活動指標】				●事業の成果 ・本事業を取り組むことにより、森林情報がリアルタイムで県、市町、林業事業者との間で共有できるようになった。 ●事業群の目標達成への寄与 ・クラウド構築により、新たな森林管理システムの集積計画を効率的に策定することが可能となり、6市町が集積計画を作成することにつながった。
				18,000	0	6,913		クラウド型森林GISの構築	1	1	100%	
			R3-	—				【成果指標】				
			林政課	—	—	—		新たな森林管理システム集積計画策定市町数(市町累計)	11	6	600%	

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

<p>i 県産木材・特用林産物の生産拡大</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題          対馬しいたけについて          ・生産者がアシストスーツを体験し、しいたけ原木管理の労務軽減対策として、一部生産者に導入を図ることができた。また、販売促進への支援により開拓した有利な販路を推進するため、品質・量ともに安定した出荷を図る必要がある。</p> <p>五島ツバキについて          ・集落向けのツバキ剪定講習会が新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、断幹や大苗植栽を行いモデル林を設置し、効率的なツバキ実の採取に向けた検討を行った。R3年度は豊作年であったが、新型コロナの影響でツバキ油の需要が減少し、精油所がツバキ実の受入を制限したこともあって生産量は伸び悩んでおり、より効率的なツバキ実の収穫のための剪定や配置技術の研究・普及が必要である。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性          対馬しいたけについて          ・しいたけ原木の供給については国庫補助事業を活用し、集落単位で原木を供給できる体制を整備する。また、販売促進については、流通を集約化し、有利な販路の開拓を進めるとともに、さらなる品質の向上を図る。</p> <p>五島ツバキについて          ・農林技術開発センターが開発した剪定技術の普及拡大を図り、島内所有者のツバキ林管理技術向上と効率的なツバキ実の収穫を図る。</p>
<p>ii 産地の維持拡大に向けた革新的技術の開発</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題          ◆森林情報整備          森林情報を一元管理できるクラウド型森林GISを導入、施策立案や現場で利活用ができる環境が整った。一方、導入から間もなく、操作に慣れていない利用者もいる。</p>	<p>●課題解決に向けた方向性          ◆森林情報整備          クラウドシステム利用者向け説明会を開催し、操作技術の習得に努めるとともに、運用面での課題を抽出し、その改善を図る。</p>

### 4. 令和4年度見直し内容及び令和5年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名		令和4年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和4年度の新たな取組は「R4新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載	令和5年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間	所管課(室)名		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目 i		4	森林のめぐみ効果拡大事業費(対馬しいたけ活性化対策)	R4補正		⑤	対馬しいたけの取引価格の向上と、生産意欲の向上を図るため、流通の集約化と販路開拓の支援を引き続き実施する。また、産地の維持と栽培技術の伝承を図るため、新規参入を促し、生産を継続する取組等を支援する。	改善
			(R4補正)R4-6					
林政課								
取組項目 i		5	森林のめぐみ効果拡大事業費(五島ツバキ活性化対策)	R4補正		⑤⑥	ツバキ実採取の効率化を図るため、農林技術開発センターと五島列島ヤブツバキ振興協議会が連携し、技術の普及と人材育成を引き続き行う。	改善
			(R4補正)R4-6					
林政課								
取組項目 ii	○	6	森林環境譲与税事業費(森林情報整備)		新たな森林管理システムをさらに推進させるため、クラウド機能を拡充する。	②	利用者説明会の開催やヘルプデスクを設置し、運用面での課題を抽出して改善を図り、システムを安定的に稼働させる。	改善
			R3-					
			林政課					

注:「2. 令和3年度取組実績」に記載している事業のうち、令和3年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

#### 【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点